

2004年5月27日

## プレ drupa2004 (第2報)

### フランス滞在記

国際印刷大学校学長

工学博士 木下堯博

#### 1、はじめに

2004年5月6日から始まる drupa2004 に参加するため大韓航空 (KAL) で同日パリに着いた。ここフランスに3日間滞在し、5月9日(日)から drupa 会場に向かう。5月6日から8日までの3日間は天気に恵まれず、2日間は雨であった。

ベルサイユ宮殿、ギメ博物館、EU パリ分室、リヨン印刷博物館などを訪問し、フランス国立図書館、OECD 本部などは時間の関係で参加出来なかった。

しかし、週刊誌で富士写真フイルム(株)のデジタルカメラとその処理法の記事、モノクロデジタルプリンターの性能評価などの論文があり、ブラザーとサムソンのプリンターが上位に入っていた。

マドレーヌ寺院からオペラ座へ通ずるマドレーヌ通には KAL や SAMSUNG 社が店を構え同社は大型プラズマテレビ放映を続けていた。

また、シャンゼリゼ道ではトヨタのショールームがあり、上下左右のフォカルプレーイン方式のショウウィンドウで注目を集めていた。

フランスの実質 GDP 成長率 (%) は 2004年 2.7% 増と順調に推移している。

フランスから日本への輸出は 2001年 8.5% 増で、バック類、ワイン、化学品などで、日本からフランスへの輸出は乗用車、ビデオカメラ、オートバイなどである。

日本は対フランスへの貿易収支は 2001年 84億円の黒字であった。

投資市場はルノーが日産と資本提携、カルフルの幕張への進出、ルイビトン・ヘネシーグループの進出がある。フランスの印刷及び出版関連メディアの出荷額は 1995年から 2000年にかけて 1.2 倍の伸びあった。日本は同年で 1.0 倍である。

1993年から 2000年までの印刷出荷額の時系列変化は右肩あがりである。

高等教育機関の在籍者 (人口 1000名当たり) アメリカの 54.2%、フランス 36.6%、イギリス 34.5% と世界第 2 位であり、学校教育費は政府総支出の 11.5% となり、これは第 3 位となっている。

フランスの大学はほとんど国立であり、大学数約 80 校でバカロレアに合格すれば入学を認められる。B (3) + M (1) + D (1~5) 年となり、日本よりも短い。

2000年にデジタルデバイド解消政策を打ち出し国民全員のインターネット接続、教育分野で IT 投資を決定している。

しかし、富士通総研経済研究所の「電子商取引に関する 10ヶ国の比較と特徴」の

報告では10ヶ国は一般にアメリカへの方向に対応しているがフランスはインターネットの活用が若干遅れている。確かにシャルルドゴール空港(CDG)にはインターネットラウンジが無いという返事であった。

パリ、フランス訪問は1964年ドイツ留学の時と1992年TPGの印刷機材展時の3回目である。

## 2、初日

5月6日の出発当日は午前6時起床、自宅を7時10分にタクシーで、若宮高速インターまで、そこから高速バスで福岡国際空港へ、8時30分の予定よりも早く国際空港に到着した。銀行で円をEUROに換金し、10時30分発ソウル(仁川)行きを待合室で過ごした。スーツケースは前日ローカールームに保管していたので手ぶらで出かけた。チェックインではこの荷物はパリのドゴール空港まで運ばれる。

予定通り出発し、約1時間のフライトで仁川空港に到着。空港内のインターネットラウンジに寄り、サイバースパスを購入し、メールチェックを約20分間行った。

IPEX 2002の2年前まではこのラウンジは無料であったが、台数も増えかなり整備されたように感じた。

パリ行きは13時30分発予定通りの出発であり、あらかじめKALのジャンボ機ボーイング747の61ABを予約していたので快適であった。このシートは横一列3+4+3=10名であるが、機体が細くなる部分で横一列2+4+2の8名の部分があり、木下2名は窓・通路の2席を確保した。

出発まもなくランチ(肉料理とビビンバ二者択一)が出された。

6時間後(日本時間19時30分)にディナーとなり、チキンと肉料理のこれもいずれかの選択であり、前回のIPEX 2002の時よりもかなり改善されていた。

以後若干の仮眠をとったが窓からシベリヤの原野が広がっていた。

日本時間0時40分(現地時間17時40分)シャルルドゴール(CDG)空港に着き、フランス語、ハンガール語、英語での案内のアナウンスがあった。

CDG空港は円形の第1ターミナルと平行型の第2ターミナルがあり、KALはエアフランスと同じの第2を使用していた。

CDGからRER(フランス郊外鉄道)やバスがあったが疲れていたのでタクシーで予約していたMercure de Paris Gare de Lyon Hotelにチェックインした。

就寝は現地時間21時で日本時間午前4時であった。1日を有効に使った。

## 3、二日目

5月7日は小雨、朝5時に起床した。TVは一台でTV鑑賞、インターネット、メッセージ、ゲームなどが可能なマルチチャンネル型のものでオランダフリップス製であった。

6時30分からパイキングによる朝食後、パリリヨン駅を散歩したが少し肌寒さを感じた。

8時30分発のベルサイユ宮殿行きの観光バスに乗るため地下鉄でマイバスセンターまで行く。車上からパリの朝市などを見ながらベルサイユ宮殿に着く。イヤホン付きの説明で

ベルサイユ宮殿を見学した。ベルサイユ宮殿は太陽王ルイ14世～16世の栄華がしのばれる宮殿である。2000室もある各部屋は迎賓の間、鏡の間など贅をつくし迫力があつた。王妃が聖書を持っている肖像画はグーテンベルの発明した42行聖書が1700年代に小型化し、ポータブルになっているが分かる。

庭園も大変広く、立派であった。ここには毎年フランスの全人口の約1.2倍の7,000万人の観光客が押し寄せるとのこと。フランスはまさに観光立国であり、パリはロンドンに次いで世界の宝石である。

12時に解散し、マドレーヌ寺院のそばの日本食堂で牛丼とそばを食べた。

営業税を軽減するため間口を狭くし、奥行きは広がった。

昼食後、ギメ美術館に行った。日本を含め東洋に関するコレクションがあり、写真アーカイブと図書館が学術的に価値があり、利用者は多かった。

近くにあるEU本部の分室は5月1日からのEU拡大で緊張した雰囲気であった。

帰路、凱旋門の近くでレイビトン本社の向かえにあるFouguetsでコヒーブレイクをしていたら夕立に会い、近くのジョルジュサンク駅から一号線の地下鉄でホテルに帰った。

この一号線はセーヌ川に沿って走り、銀座線みたいな路線である。バステュー付近で外に出る箇所もある。

#### 4、三日目

5月8日、5時に起床。朝食は昨日同様のバイキング形式であるが、ロンドンのケンジントンホテルに比較して豪華であった。

ちなみにホテル代はツインの朝食付きで150ユーロであり、日本円で約2万円相当になる。航空運賃とホテル代を含めて3泊5日間で一人約10万円であったので、航空券は福岡パリー往復約7万円相当になる。この金額でdrupa参加のためエアーを延長しているので帰路もドゴール空港から出発となる。

本日はリヨン印刷博物館に行くがTGV乗車でリヨンまで1等の乗車券を購入すると片道93ユーロで二人になると186ユーロ(2万4千円)であり、ユーレルセイバーパス(3ヵ国、5日間)が4万6千円であるので1日でペイすることになり、パスは有効利用すると割安となる。

リヨンペラシュ駅に予定通り、約2時間で9時45分着。地下鉄に乗り換えコンシャルド迄行く。Musée de l'Imprimerie(印刷博物館)の場所を街の中で3回聞いたが、知らないとの返事であった。最後に老人の男性に聞いたらフランス語で教えてくれた。しかし残念なことに当日(土曜日)は休みであった。インターネット上では月、火曜日が休館日であったので安心をしていたが、5月8日は第2次世界大戦の終戦記念の祭日であることをまったく知らなかった。

いつか再挑戦してみるつもりである。リヨンの現代美術館で1996年6月G7サミットがあった。街を流れるローヌ川とソーヌ川の中洲に旧市街地があり、郊外へ抜ける橋のたもと近くのサンクトニジェル教会に行き、帰路パリの支店のモンプリで買い物をし、

リヨンペラシュ駅に戻った。

リヨンは横浜市との姉妹都市で人口45万人、マルセイユ市80万人（パリ市212万人）に次ぐフランス第3の都市で世界文化遺産に指定され、パリ・リヨンはTGVで結ばれ繊維産業から化学工業が盛んである。バイエル、デュポン、ダイキン各社が進出し、世界的に充実した研究機関がある。例えば、リヨン繊維化学技術大学、リヨン第1大学、リヨン化学物理電子専門学校などである。

グーテンベルグの印刷術は1462年パリに伝播したが、僧院の写生字達が反対したが1469年にはドイツ人により印刷所が設立された。

1473年にリヨンでもフランス人により印刷所が設立された記念すべき都市であり、その記念の Musee de Imprimire 博物館でもある。

パリリヨンまでTGV一等車はまったく空席が多くSNCF（フランス国鉄）はあまり儲からないのではないかと思った。パリリヨン駅からリヨンペラシュ駅まで約530Kmを2時間で結ぶTGVは2階建てになっていて騒音も少なく改良されていた。

途中検閲もなかった。パリ戻ってから翌日のデュセルドルフへ行く座席の予約にパリー北駅まで行く。一等の座席予約が一人25ユーロであり、軽食付きである。

北駅周辺は上野駅前のアメ横に似ていて雑踏の中でアフリカ系が多く人種のルツボであった。帰路オペラ座の近くにある三越で買い物をしてホテルに帰った。電話は0081で日本にはかかるが、ドイツにはかかりずらかった。明日からの drupa 展を控え8時30分に就寝した。

## 5、ドイツ行き

5月9日パリ最終日、5時に起床。朝風呂に入り、パリの垢を取り除く。パリ北駅8時55分発ブッセル、アーヘン経由ケルン行きに乗車した。列車の中で drupa の資料を整理した。この国際列車は12時49分にケルン着。ケルン発13時10分でデュセルドルフに13時31分到着。荷物をロッカーに入れ、地下鉄U78番で drupa 会場に向かう。

テロ防止のため迷彩服の兵士が地下鉄を警邏していた。

地下鉄終点のメッセ北口は新しい会場（8号館、現在の8号館は7-2号館となる。）が建設中で2階が入口になっていた。2000年の drupa 会場とはイメージが一変していた。

プレス受付であらかじめ登録していたカードをもらい、家内をアシスタントとして受け付けてもらいプレスクラブへ行き4日間のメールをチェックした。

その後、1号館から17号館まで各会場を巡回バスで一周し、1号館、2号館のハイデルベルグのコマから見学を開始した。富士写真フイルム写真株の情報交換会が5月11日、日航ホテルで開催した時、ドイツ在住の音楽家の谷本さんが来られ、デュセルドルフでハイネの詩とシューマンを思い出し、詩人の恋の中から「麗しき5月に」の歌曲を原文で掲載した。

H. Heine 詩

R.A. Schumann 作曲

Dichterliebe Im wunderschönen Monat Mai

Im wunderschönen Monat Mai

Als alle Knospen sprangen

Da ist in meinem Herzen

Die Liebe aufgegangen

## 6、まとめ

パリは美術館、博物館、図書館など芸術・文化の宝庫であり、市全体が教育の場でもある。世界中から夢と希望をもって集まる7000万人はあとを絶たない。若者は一度、パリで生活することをお奨めしたい。

今回のパリ滞在はあまりにも短く予定していた資料収集に時間が足りなかった。

帰路、デュセルドルフからパリ北駅まで出たが、途中のケルン駅にはモスクワ発23時40分発ワルシャワ（翌日19時30分）経由ケルン翌々日9時24分着で我々の乗車したパリ行き10時12分発にうまく接続する。この列車でブラッセルにて20分待ちでロンドン行きに乗り換えることが出来る。5ヶ国、6ヶ国を走る国際列車であり、ウエイトレス、ウエイターによる豪華ランチも出され思いがけない素晴らしい旅であった。

1964年のドイツ留学時にニュールンベルグからモスクワ行きの列車に乗り、プラーハのコボ社（印刷機械メーカー）に出張した時、週1度の運行であり、大変厳しきチェックがあった。また、チェコの旅行社セドックをドイツ旅行社から紹介され、ホテル手配などすべて依頼した経験があったが、今回パリ市内の観光事業にも参加していることを確認した。シャルルドゴール（CDG）空港は拡張を続けていてあまりにも広く、超未来建築は目的とする場所に着くのに苦労したがJTBの連絡デスクがあり、案内や荷物の預け（CDGにはロッカーがない。）など大変助かった。しかし5月23日、CDG第2ターミナルEで天井の崩落事故があり、6名の死者が出たとのニュースがあったが高層近代建築にも欠点があった。この旅行の基本はJTBの「大韓航空気軽に行くヨーロッパ」で帰路をエアー延長し、ユーレールパス（3ヶ国）でドイツ入りをした。

機会があればパリの図書館とリヨン印刷博物館などの訪問を再挑戦してみたい。

ドイツのデュセルドルフのHotel QuadenHofには2008年5月29日～6月11日のdrupaに参加することを約束したので4年後には実現する予定である。drupa2004報告は第3報でまとめる。

（2004年5月27日記）